

3. ふるさと元気学習の成果

(1) 教職員の議論

学校林等での活動を通して得た成果について、西栗倉小学校の研修のまとめ等において議論された点を中心に述べる。

① 森林での活動が子どもたちの学ぶ力・生きる力を育む

“百年の森林構想”をもとに村づくりを進める西栗倉村にふさわしい教育の創造をめざして“ふるさと元気学習”は生まれた。構想から具体的な教材開発、それに基づいた授業展開と小学校での研修が重ねられてきた。今年度で5年目を迎える。ふるさと元気学習は、西栗倉村の森林を中心に自然環境を生かした体験学習を重視するものである。

しかしふるさと元気学習の第一義的な目的は、子どもたちの学ぶ力・生きる力を育てることにある。これまで、森林での活動がどのように子どもたちの学ぶ力・生きる力を育てるのか議論を重ねてきた。それをまとめると以下の通りである。

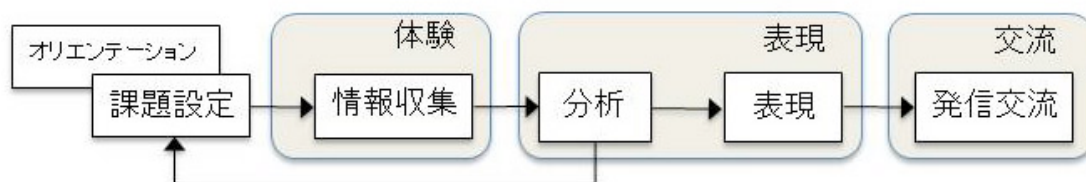
- ・森林は子どもたちの豊かな感性や人間性を育む様々な体験活動の場を提供してくれる。
- ・様々な森の贈り物を見つけ探す過程で、子どもたちの探究する力を育てることができる。
- ・森林と人との多様な関わりを学ぶことができる。
- ・子どもたちは村の天然林、人工林、沢などで、森での体験を通して多様性、関連性、有限性などを学ぶことができる。
- ・森林の持つ多面的な機能により、多面的・総合的なものの見方・考え方を育む機会も提供してくれる。

② 森林での活動で探究する力を育てる学習モデルを知ることができた

西栗倉小学校では、ふるさと元気学習を総合的な学習の時間を中心に展開している。今、総合的な学習の時間では、探究的な学習(課題設定、情報収集、整理分析、表現発信)が求められている。探究的な学習を成立させるためには、単なる体験活動や調べ学習が中心の授業から、子どもたちが自ら考える活動を重視した授業への転換が必要である。そのためどのように学習を展開していけばよいか。いくつかの学習モデルを知ることができた。以下にその事例を示す。

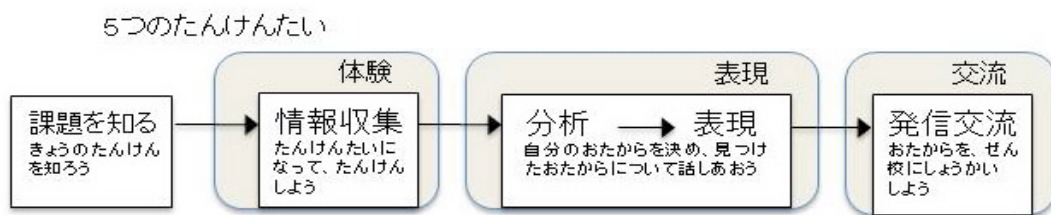
A 「百年の森林公園づくり」5年生

体験—表現—交流の三層の学びの場と探究的な学習 基本型



西栗倉村の村長から子どもたちへの提案を受けて、公園候補地の現地調査、全校のアンケート調査を行い情報収集、分析する。それらを元に公園づくりの課題を設定、分析、報告書づくりを通して表現しまとめ、最後に村長に報告する。このような活動を通して子どもたちの探究する力を育てる。図の通り現地調査やアンケート実施は、探究的な学習においては情報収集の段階に他ならない。また報告書等にまとめるだけでなく、それを発信する活動まで連動させる。

B「5つのたんけんたい」1、2年生（生活科）



低学年では五感を鍛えふしぎを育てることを重視する。五感を使う基礎を養うために「5つのたんけんたい」「ありんこたんけんたい」「くんくんたんけんたい」「すりすりたんけんたい」「ききっこたんけんたい」「食べものワクワクたんけんたい」の活動を行う。一時間の授業の流れは、探究的な学習のスタイルに基き、課題を知り体験により情報収集したことを表現まとめ、友だちと意見交換したり全校に紹介したりする。

③ ふるさとを元気にする ESD への発展

西栗倉小学校の高学年は“ふるさとづくり”をテーマに、次のような取組を行っている。ふるさとを元気にしている大人を見つけ生き方を学び表彰する“ふるさと元気アワード”。間伐材を利用して百年長生きできるグッズの企画—製造—流通を総合プロデュースし、間伐の大切さを訴えながら村の高齢者や観光客を元気にする“ふるさと元気グッズづくり”。また村全体を公園にして持続可能な村づくりを目指す“百年の森林公園の村づくり”の提案と実行などである。

森林での活動に始まるふるさと元気学習は、上記のように森林から地域社会へ活動範囲を広げていく。西栗倉の森林で学ぶ子どもたちは、それをもとに自分たちの住む西栗倉村を元気にするために知恵を出し、それを実行していく。ふるさと元気学習の究極の目的は、子どもたちが地域の一員として社会参加し、森林も人も含め西栗倉村らしい持続可能な社会づくりの一翼を担っていくことにある。ふるさと元気学習とは、“森林 ESD”を核に“ふるさと元気にする ESD”とすることができる。

議論の結果、このような方向性を持ち、現在子どもたちの育てたい力や具体的な活動について見直しより充実させ、“ふるさと元気学習”の更なる展開を図っている。

(2) 子どもたちの感想

林野庁主催の悠々の森・子どもサミット in 北海道 (h24年)、ニッセイ緑の財団主催の復興支援シンポジウム参加(h25年)等で知り合った宮城県の北上小学校との交流活動で、西栗倉小学校の子どもたちが出した手紙の一部を紹介する。

○北上小学校のみなさん、お手紙ありがとうございます。3つの小学校がいっしょになって忙しいのにわざわざたくさんの手紙を書いてくれてかんげきです。手紙の中には、過去のつらいできごとを手紙に書いてくれたものがありました。とても勇気がいったと思います。その手紙にこう書いてありました。

「百年かけてでもりっぱなふるさとを作っていきたいと思います。」

私たちは、とても感動してちゃんと手紙にこたえようと話しました。でも、どうやってこたえればいいのかうまく書けません。今は、「西栗倉小の6年生みんなが応援しているよ。」と伝えたくてメッセージをつけました。

北上小学校のみなさんに提案があります。

「ふるさとを元気にするために、私たちにできること」を本気で考えませんか。

私たちも本気で考えます。西栗倉小学校で行っているふるさと元気学習も、私たちのふるさと西栗倉村を元気にするためにしています。今していることや自分たちで新しく考えたことなどを、みんなでまとめようと思います。まとめるのに少し時間がかかるかもしれませんが、待っていてください。

○北上小からこんな手紙が届きました。「ぼくの家は津波で何もかもなくなってしまいました。百年かけてでもりっぱなふるさとを作っていきたいと思います。」と書いてありました。そこでぼくたちも本気でふるさとを元気にする方法を考えることにしました。

ぼくたちの考えは、森で遊んだり学習したりすると元気になります。子どもが元気になったら、学校が元気になり、学校が元気になると村がげんきになるということです。

今、西栗倉小ではふるさと元気学習をしています。ふるさと元気学習でつくっている元気グッズは西栗倉村の間伐材を使っています。スギやヒノキのおいほとてもいいにおいです。元気グッズは全校の子どもで作り、それを村の人や観光客にプレゼントします。もらった人はすぐに笑顔になります。また元気グッズを持っていると百年長生きすることができます。

もう一つ西栗倉小には子どもがつくったたくさん森のキャラクターがいます。子どもも先生も森のキャラクターが大好きです。このように西栗倉小には、森のキャラクターとふるさと元気学習という良いものがあります。ぼくは、これらをもっとパワーアップさせてふるさとを元気にしたいと考えます。

次に百年の森林公園作りで村長の話聞いた子どもたちの感想の一部を紹介する。
○わたしは村長さんの話を、西栗倉村はすごい村だなと思いながら聞きました。最初に西栗倉村の特ちょうが、道を通して他の地域との交流だったことを聞いて意外でした。昔から西栗倉村の道は便利な道で交通の要だったこともわかりました。

百年の森林公園のことは、とてもいいと思いました。わたしは百年の森林公園をつくると、都会の人たちが来てくださって、木の良さや森のことを知ってもらえると思います。西栗倉の人たちにも、くつろいだりリラックスができたりしていいと思います。

そして、わたしたちが公園づくりに参加したら、子どもにしかできないちえやアイデアなどを出し合います。そして役場の人や村長さんに「すごい！」と言われるような公園の設計をしたいです。

H26. 5月

9. その他

(1) 地域社会の協力状況

ふるさと元気学習は、ふるさとの自然や人とふれあい学び、子どもたちの学ぶ力・生きる力を高め、ふるさとを元気にする学習である。文字通り地域の人々と強力に連携することなしには成立しない。

西栗倉村では村の教育委員会はもちろん、役場の広報担当、産業観光課の担当者まで深くふるさと元気学習に関わっている。特に村の天然林や人工林での森林体験活動では、講師として産業観光課の職員が子どもたちと一緒に学習する。

また、村にある森林組合、木工所、家具製作所、大工さん等、森つながりの多くの関係者をはじめ、ふるさと元気給食で食材生産者など、多くの方々の協力を得てふるさと元気学習は成立している。

(2) 他地域への波及

林野庁が主催する「学校林・遊々の森全国子どもサミット」、それを引き継ぐ「学校の森・子どもサミット」に、平成25年度より西栗倉小学校は参加して来た。またニッセイ緑の財団が主催する復興支援シンポジウム「広がれ、つながれ学校の森」へ、これも平成25年度より参加して来た。

これらの事業は、地域の森林や身近な自然環境を生かした教育を行っている学校の子どもや指導者が集まり、学習活動の発表や自然体験活動、交流活動を行うものである。これらの事業に参加し、森での活動内容やその教育効果について提案・発表してきた。

また、27年の8月4、5日には、第2回「学校の森・子どもサミット」の森林体験活動が西栗倉村で行われた。全国から10校の小学校の子どもたち60名、引率及び大人の参加者40名、その他教員研修者20名を受け入れた。参加した子どもたちは、西栗倉村での森林体験活動をもとに、その体験を表現・まとめ、最後に村の人々や参加者と交流する、“ふるさと元気学習”を実際に体験した。森林での活動とその学習展開の方法を“ふるさと元気学習”として、全国の子どもたち並びに指導者に提案することができた。